

## 教育方針等

## 1 教育目標

「自ら創造し、共にたくましく生きる生徒」

## 努力目標

- (1) 互いに尊重し、自他を活かす
- (2) 志をもち、進んで学ぶ
- (3) 強い意志をもち、粘り強くやり抜く

## 2 学校経営の方針

新型コロナウイルス感染症対策に危機管理の視点に立ち、組織的に対応しながら、教育活動の計画、実施等を状況に応じながら柔軟なものとしながらも、本来の教育活動の実施を目指す。

生徒・教員が安心して過ごせる環境づくりに努め、生徒が志を高くもち、誇りをもち、自ら学ぶ力を身に付けられるよう教職員が協働する。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し本来の教育活動を実施し、保護者・地域との緊密な連携を図る。また、自己調整学習をベースにしながら各教科における基礎学力の定着、ICT等を活用した授業改善、生徒の健康・生活・学習の自己管理を行う。

青森県教育委員会、八戸市教育委員会の学校教育指導の方針を踏まえ、カリキュラムマネジメントのもとに教育指導の充実を図るとともに、教職員の資質の向上を目指す。

## ア 生徒、教職員にとって安心・安全な学校づくり

- ・生徒相互、教師と生徒との温かい人間関係を基盤にした学校・学年・学級づくりに努める。
- ・安全点検、安全管理を徹底し、安全確保や校舎内外施設設備の環境保全に努める。
- ・報告・連絡・相談をスムーズに行い、必要時にはチームでの迅速な対応を行う。
- ・各種たよりやホームページ、学校行事やPTA活動等の機会を通して、学校と家庭・地域社会との信頼関係を深めながら、家庭や地域社会の信頼に応える学校づくりに努める。

## イ 確かな学力をはぐくむ学習指導の充実

- ・生徒の実態を踏まえながら、基礎・基本の確実な定着と活用を図る指導を工夫する。
- ・実践的な指導力向上のための校内研修を充実させ、生徒が主体的に学習に取り組み「わかった！できた！身についた！」が実感できる学習指導の工夫をする。
- ・生徒が自分の考えを表現し、学び合いを通して考えを深めていけるような指導を工夫することにより、思考力・判断力・表現力を高める。
- ・生徒が「自ら学ぶ力」を身に付けるための指導の在り方を教職員が共有し、手立て等を具体的に示し計画的に指導を行う。
- ・授業（教科・領域）、行事等でのICTの活用と1人1台端末の家庭での活用について推進する。

## ウ 豊かな心をはぐくむ教育の推進

- ・道徳の時間の指導を充実させるとともに、学校の教育活動全体を通して道徳性を養う。
- ・感動や喜びを味わえる様々な体験活動を充実させ、体験を通して、自己の生き方を深く考えさせるようにする。
- ・自他の生命や人権を尊重する教育を推進し、互いに協調しながらよりよく生きようとする姿勢を育てる。
- ・ひたむきに物事に取り組める、努力できる能力を育てる。

## エ 健康・安全指導の充実

- ・家庭や地域社会と連携し、望ましい生活習慣や学習習慣を身に付けた生徒を育成する。
- ・防災教育を充実し、危険を予測し、安全に行動できるような判断力や危機回避能力を育てる。
- ・生徒の心身を高める部活動を推進し、意欲や体力の向上、人間性の向上を目指す。
- ・一人一台端末を活用した健康・生活・学習の自己管理と生徒・職員による分析・考察の実施。

## オ 特別支援教育の推進

- ・生徒の実態に即した個別の指導計画や個別の教育支援計画を作成し、一人一人の教育的ニーズに応じた指導に努める。
- ・研修等を通して特別な支援を必要とする生徒の理解を深め、個に応じた指導に生かす。
- ・情報交換を密にし、生徒のよさや成長を共有しながら、将来の自立を目指した教育を推進する。

## カ 全校体制で取り組む生徒指導

- ・生徒と触れ合う機会を多くし、小さな変化やサインを見逃さずに声かけや相談、支援や指導を継続することにより、相互の信頼関係の上に立ったきめ細かな生徒指導を進める。
- ・教職員相互、SC、SSW、関係機関との連携を密にし、いじめや不登校、問題行動などの早期発見・早期対応を図る。また、役割分担を明確にして、学校ぐるみで解決に取り組む。
- ・生徒会活動を中心とした自発的・自治的な活動を充実させ、よりよい集団づくりを通して生徒の社会性を育む。

### 3 学校目標

「自ら学ぶ力の育成 ～自己調整学習を通して～」

#### 重点施策

- (1) 教職員、生徒が自己調整学習について理解を深め実践する。
- ◇課題、目標を見つける、立てる力を身に付けさせる。
  - ◇見通し、計画を立てる力を身に付けさせる。
  - ◇自己評価、相互評価の評価する能力を高める。
  - ◇修正、工夫、発展させる能力を高める。
  - ◇生徒が主体的に物事に取り組む態度を育成する。
  - ◇自己調整学習を授業、行事、学校生活等に取り入れる。
- (2) わかった！できた！身についた！を実感できる授業づくり
- ◇言語活動の充実に基づく、コミュニケーション、意見の表現等の表現する場の設定。
  - ◇授業や集会、学校生活、健康等での ICT 機器の効果的な活用。
  - ◇授業と自主勉強ノートに関連させた取り組み。
  - ◇小学校との連携による学習指導の充実。
  - ◇生徒が物事にひたむきに取り組む努力できる指導。
- (3) 生徒が安心して生活できる集団づくり
- ◇小さな成功体験を積み重ねられる場、多くの学ぶ場の設定。
  - ◇スクールカウンセラー、関係機関の活用。
  - ◇小集団の活用。

〔評価基準〕 次の生徒・教師・保護者アンケートの結果で「そう思う」「少しそう思う」の割合の合計が80%以上であれば「おおむね達成」と判断する。

	生徒視点のアンケート項目
重点施策(1) ◎生徒・教師・保護者アンケートによる評価	①将来の夢や目標をもっていますか。 ②いろいろな活動において、目標を明確にもち、その達成に向けて計画的に取り組んでいますか。 ③いろいろな活動についてそれぞれ振り返って(評価して)、次に活かしていますか。 ④学校・学年行事などにおいて、自分の役割を自覚し、責任をもって取り組むことができましたか。
重点施策(2) ◎生徒・教師・保護者アンケートによる評価	①学校の勉強は楽しいと思いますか。 ②家庭での時間を有効に使って学習(宿題、自主勉強、読書など)に取り組んでいますか。 ③友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができますか。 ④授業や行事、生徒会(委員会・部活動を含む)、学級で、意見や質問、発表等ができましたか。 ⑤先生は、学習面でサポートをしてくれていると思いますか。
重点施策(3) ◎生徒・教師・保護者アンケートによる評価	①人が困っているときは進んで助けようとしていますか。 ②先生は、あなたのよいところや努力を認めてくれていると思いますか。 ③学級では、安心して生活できていますか。 ④悩み事があったときに、相談できる環境がある(人がいる)と思いますか。

### 4 学区の特色

- (1) 南郷小学校の開校により1小学校からの入学となった。学区は旧3小学校区から成り立っており、遠距離の通学生のために、一部スクールバスが運行されている。自転車通学も認めている。
- (2) 旧南郷村の施設としてカッコーの森エコーランドがあり、陸上競技場、屋内プールなどスポーツ施設が充実している。また、文化ホール、図書館もあり、文化施設も充実している学区である。
- (3) 「ジャズと蕎麦の郷」として地域振興を図っている。毎年7月にジャズフェスティバルが開催される。本校には全国的に珍しいジャズバンド部があり、例年フェスティバルのほか各種イベントに出演している。
- (4) 高校通学は遠距離通学となっている。よって、通学方法も進学先選択の大きな要素になっている。隣接学区となっている、軽米高校への進学者もいる。